〝田老万里の長城〞を見学する．これは津波災害から町を守るための総延長2,433m，高さ10mに及ぶ防浪堤で，二階建ての家よりもまだ高いというしろものである．これでチリ地震津波の被害を防ぐことができたという．

このように学生時代最後の巡検はたくさんの思い出を残して無事に終了し，いつまでも心に残るであろう実り多いものとなったのであった．

（7月11日～14日　三上教官指導）

筑　波　巡　検

高　橋　昌　子

一般にはガマと山麓の研究学園都市で知られる筑波山であるが，地質的には古生層にハンレイ岩を捕獲岩とした花崗岩が貫入し，さらに侵食によって山頂にハンレイ岩が表出する格好となった珍しいタイプの山である．よって私達も出発前からその山容をこの目で確かめようという意欲に燃えていた．

当日10時に筑波駅前からバスに乗車．アカマツ林にはさまれたカーブの多い道を登り，標高240m地点へ行く．山麓より山腹の方が温暖なので集落が発達した好例である．早速露頭の観察を行なった．ペディメントをなす岩石の小さなものの風化土壌である．ボロボロと乾燥した感じで，火山灰層のベッタリした感じとは異っている．花崗岩の大石も各所にみられるが，これは基盤ではなく上から落下したものである．頂上から転がってきたハンレイ岩らしい小石もみられた．

少し下って，標高130m付近のみかんの木を見た後は，神社そばから山頂行きのケーブルに乗った．到着後，2つある山頂のうち低い方の男体山頂へ，次いで標高876mの女体山頂へ登る．地中でできた節理が地表に出て風化作用を受け，そのすき間が広げられたという白っぽくなったハンレイ岩．その下には一面のブナ林が見られる．マツやスギなどの針葉樹林はむしろ下方の北斜面に分布するという．

徒歩で下山したが，その小道のあちこちでハンレイ岩の大石が様々な形態で私達を待ち受けていた．例えば，10m以上の高さを持つ「北斗石」，船が2隻並んだ形の「出船入船石」，2つの大石の上に今にも落ちそうな格好で大石が乗っている「弁慶七戻」など，石の一つ一つに名称が付けられている．

急に眺望が開け，つつじが丘に出た．親子のガマ像の下で再度露頭観察．今度は榛名山あたりから降ってきた鹿沼土と呼ばれる火山灰土の地層であった．花崗岩質の基盤で，水はけのよいこの付近は筑波山唯一の草原地帯である．

こうして，浅海先生指導のもと，期待していた以上の収穫を得て，私達は筑波山を後にした．

（7月13日　浅海教官指導）

仙　台　巡　検

堤　　佳　代

まだ残暑厳しい9月6日，初めての宿泊巡検に私達はそれぞれの胸に様々な思いを秘めながら，仙台駅へ集合した．

空はよく晴れていて，「杜の都」仙台は私達を快く迎えてくれているようだった．

井内先生指導のもとになる今回の巡検は，〝広

域中心都市仙台の発展と周辺農村部の都市化の様態″をテーマに，3日間で行われた．その概要を以下に示していきたい．

まず，6日に仙台駅へ集合し，駅前ビルより市街を展望した後，繁華街を通り，県庁・市役所でヒアリングを行った．

ここで，私達は，東北地方とはどういう所か，また，宮城県の中で，仙台市はいったいどのように位置付けられ，現在，どのように機能しているかを知ることができた．その後，東北歴史資料館，および多賀城跡を訪れた後，泉ニュータウンでヒアリングを行った．

短時間で，バス移動ではあったが，車中では，絶えず先生がいろいろな説明をして下さったおかげで，私達は，仙台の歴史や，現在，流通業を基調として，どのように躍進しているかを，じかに知ることができた．

最終日の8日は，午前中，仙台市のベッドタウンと言われる泉市市役所を訪れ，ヒアリングをした．

午後からはグループに別れ，近郊の農村を訪れ，実際に土地の方々と話をする機会を得た．

仙台市は，広瀬川周辺に形成された広大な河岸段丘上に位置し，多賀城（現在，多賀城市）の存在が示す如く，古代より東北地方の中心的役割を果たしてきた．

江戸時代の大大名伊達氏による集積を基に，現在でも第三次産業が目まぐるしく発達しており，流通の分野においては東北地方の中心である．というのは，東北地方には中心となる都市がなく，群雄割拠の状態にあり，それぞれの目が東京へと注がれているからである．

従って，仙台市は，流通の面においても，又，政府の出先機関が集中しているために，行政の面においても，東北の中心足り得るが，工業集積の基盤がないために，東北全体の中心には成り得ないのである．こうした中で，今，仙台市を中心にした仙台広域都市圏の計画が進められている．

これは，土地利用を再検当し，編成し直して，多くの人々が，近代的・文化的生活を営めるようにするものである．多くの人が集まれば，資本も豊かになり，広範囲にわたれば，それだけ都市計画も行い易いのであろう．

6月には東北新幹線も開通し，様々なインパクトが予想されている．その中でも，東京に包含されるか否かは，いろいろ論議を呼んでいるが，これからの仙台の広域都市圏としての発展に期待したい．

（9月6日～8日　井内教官指導）

青　梅　巡　検

宇　井　真理子

中学・高校と，地理という教科に触れてはきた私だが，質量ともに大きく異なる大学での学問として地理を学び始めて，最も戸惑いを感じたのがこの巡検だった．遠足に毛のはえたようなものかしらと，前知識も不十分に出かけたのが，最初の青梅巡検である．夏休み明けのことで，年も変わった今振り返ってみても記憶はおぼろである．青梅に対しては有名なマラソンレースがあるくらいの認識しかなかった私は，青梅が関東の大切な水源のひとつであること，古くからの織物の産地であることを知った．知り得た知識は足をひきずった割にわずかなものであったかもしれない．しかし実際に現地へ赴き，土地の人々に接することによって得るものは，本を読んで詳細な知識を得ることとは別の意義があるであろう．織物に関して工場や事務所で受けた説明は，申し訳けないことだがきれいに頭から消えてしまっている．だがオートメ化の進んだタオル製造工場を見た後で訪ね